

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2018. 3. 20)

－2018年1～3月期実績と2018年4～6月期及び2018年7～9月期予想－

京 都 商 工 会 議 所
担当：中小企業経営支援センター
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

国内景気、回復傾向が続く。

～自社業況は、人手不足・原材料価格の上昇等への懸念から、先行きに慎重な見方広がる。～

概 要

今期の国内景気BSI値は4.9(前期実績18.1)と上昇幅は縮小した。年末の需要期の反動から旅館・ホテル等が下降したほか、厳冬や株価の一時的な下落等が下振れの圧力となり、前回予想値(6.0)を下回る結果となった。また、電気自動車や産業ロボットの市場拡大に伴い、一部の製造業(電子部品関連産業)等は堅調に推移しているものの、電子部品が不足しているため、納期長期化を懸念する声もあがっている。

今後、4～6月期の国内景気BSI値は10.1と春の需要期を迎える観光関連産業が景気を押し上げるなどほぼ全ての業種で上昇幅が拡大する見込みとなっている。続く7～9月期は6.5と春の需要期の反動から上昇幅は縮小するものの、プラスで推移しており、景気回復傾向が続くと予想する。

今期の自社業況BSI値は▲2.1(前期実績12.8)と下降した。前期に引き続き改善した業種もあるが、悪化した業種がやや上回った。季節的要因から建設業が業況を牽引するものの、国内景気同様、年末の需要期の反動から、旅館・ホテル、料理・飲食等が下降したためバラツキが見られる結果となった。

特に、運輸・倉庫業は、人手不足により、業況が悪化しているだけでなく、化学・ゴム等の一部製造業においても、物流費の値上がりが資材価格の上昇に波及する等の影響が出始めている。

今後の4～6月期の自社業況BSI値は3.3と春の需要期により上昇するものの、続く7～9月期は1.7と上昇幅が縮小する見込みとなっている。人手不足、原材料価格の上昇等への懸念から、先行きについては、全体としては、慎重な見方が広がっている。

(注) 2月上旬から中旬にかけて同調査を実施し、570社中426社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。また1～3月期のBSI値は、2018年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

2018年1～3月期は、「上昇」とした企業24.8%(前期実績40.2%)、「下降」とした企業15.1%(前期実績4.0%)、BSI値4.9(前期実績18.1)と上昇幅は縮小した。今後の4～6月期のBSI値は10.1と上昇するものの、続く7～9月期は6.5と上昇幅は縮小する見込みとなっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 2018年1～3月期は、「上昇」とした企業24.5%(前期実績40.5%)、「下降」とした企業28.7%(前期実績14.9%)、BSI値▲2.1(前期実績12.8)と下降した。今後の4～6月期のBSI値は3.3と上昇するものの、続く7～9月期は1.7と上昇幅は縮小する見込みとなっている。

1. 生産・売上高、工事施工高 2018年1～3月期は、「増加」22.9%(前期実績43.2%)、「減少」32.5%(前期実績14.3%)、BSI値▲4.8(前期実績14.5)と減少した。今後の4～6月期のBSI値は4.9と増加するものの、続く7～9月期は1.2と増加幅が縮小する見込みとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格 2018年1～3月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設業請負価格を総合的に見ると、「上昇」10.9%（前期実績13.1%）、「下降」9.9%（前期実績4.0%）、BSI値0.5（前期実績4.6）とほぼ横ばいで推移した。今後の4～6月期のBSI値は3.6と増加するものの、続く7～9月期は0.5と再びほぼ横ばいで推移する見込みとなっている。

3. 経常利益 2018年1～3月期は、「増加」20.0%（前期実績35.3%）、「減少」33.7%（前期実績19.5%）、BSI値▲6.9（前期実績7.9）と減少した。今後の4～6月期のBSI値は0.4とほぼ横ばいで推移するが、続く7～9月期は▲2.1と減少に転じる見込みとなっている。

4. 所定外労働時間 2018年1～3月期は、「増加」21.3%（前期実績31.4%）、「減少」21.5%（前期実績9.0%）、BSI値▲0.1（前期実績11.2）とほぼ横ばいで推移した。今後の4～6月期、続く7～9月期のBSI値はともに▲0.9とほぼ横ばいで推移する見込みとなっている。

5. 製・商品在庫 2018年1～3月期は、「適正」とする企業が81.3%（前期実績78.1%）、「過剰」とする企業が12.4%（前期実績15.2%）、「不足」とする企業が6.4%（前期実績6.7%）、BSI値3.0（前期実績4.3）と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感、不足感が見られている。今後の4～6月期は「適正」が85.8%、続く7～9月期は89.7%と、徐々に改善する見込みとなっている。

6. 資金繰り 2018年1～3月期は、「改善」とする企業7.0%（前期実績11.6%）、「悪化」とする企業が12.2%（前期実績8.8%）、BSI値▲2.6（前期実績1.4）と悪化した。今後の4～6月期のBSI値は1.8と改善に転じ、続く7～9月期は▲1.0と再び悪化する見込みとなっている。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位は「求人難」（43.4%）、第2位は「受注・売上不振」（33.6%）となり、前期と同順位であった。第3位は前期5位の「原材（燃）料高」（24.2%）、第4位は前期3位の「技能労働者不足」（22.1%）、第5位は前期4位の「過当競争」（20.9%）、第6位は前期と同じく「人件費負担増大」（17.1%）であった。

B. S. I. 値の総括表		実 績		予 想	
		2017年10～12月期	2018年1～3月期	2018年4～6月期	2018年7～9月期
国内景気動向		18.1	4.9	10.1	6.5
京都企業の経営動向	自社業況（総合判断）	12.8	▲ 2.1	3.3	1.7
	1. 生産・売上高、工事施工高	14.5	▲ 4.8	4.9	1.2
	2. 製・商品・サービス・請負価格	4.6	0.5	3.6	0.5
	3. 経常利益	7.9	▲ 6.9	0.4	▲ 2.1
	4. 所定外労働時間	11.2	▲ 0.1	▲ 0.9	▲ 0.9
	5. 製・商品在庫	4.3	3.0	4.3	3.4
	6. 資金繰り	1.4	▲ 2.6	1.8	▲ 1.0

※ B. S. I. 値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$